

第 2 回 第 6 期中原区区民会議 運営部会 会議録（案）

日 時：平成 29 年 1 月 11 日（月）午後 2:30～4:30

場 所：中原区役所 5 階 505 会議室

出席者：成田委員（部会長）、橋本委員（副部会長）、井上委員、小野山委員、梶川委員、
田邊委員、萩原委員

【委員 7 名】

高橋副区長、村田危機管理担当課長、鈴木企画課長、小栗担当係長、中野職員

【事務局（中原区役所）5 名】

岩下【コンサルタント（㈱カイト）1 名】

1 開会

開会宣言

資料確認

会議の公開について

2 会議録確認委員の選任（進行：成田部会長）

「部会長・副部会長を除いた名簿順で会議ごとに 1 名の委員を指名」の原則に沿って、梶川委員が努めることとなった。

3 検討テーマ「災害に強い、ユニバーサルなまちづくり」に関する調査検討について

（進行：岩下（コンサルタント））

○資料 1 に基づき、課題調査部会長の井上委員から課題調査部会の審議経過について報告があった。

○資料 2 に基づき、コンサルタントより、課題調査部会の審議結果を受けて想定される今後の想定論点、参考となりそうな事例等について説明があった。

【意見交換】

萩原委員 防災の取組は既に様々なものが成されている。「区民会議として取り組む事の
新しさ」が何か必要だ。弱者にとっての取組として何をするのか。何か制作物をつくる
のであれば「区民会議のマーク」を入れる。イベントをやるのであれば町会や地域
単位でなく大規模なものとし、これまでの枠を超えたような参加を得るなどできると
良いと思う。今後取組を継続させていくような原動力も必要だ。

コンサルタント 「弱者支援」は今回の議論の出発点だった。そこに拘って取組を考え
てみてもよいかもしれない。

萩原委員 他区の防災フェア、子どもを巻き込んだ仕組みなど、参考になりそう。危
機管理士は確かにハードルが高そうだが、「市民救命士」はもっと宣伝したい。そこら
中にいて欲しい。

小野山委員 いかに危機感を持続させ、一発で終わらないようにすることが大切だと思
う。例えば学校教育の中に盛り込んでいく。市民救命士はどのくらいの講習で取得で

きるものなのか。避難所運営と絡めた形で 1 級 2 級など、レベル別の何かがあると良いと思う。区独自のものになるのか。

萩原委員 (市民救命士は) それほど難しくない。私も持っているが、数時間の講義や実習を受ければ取得可能で、顔写真等があれば、その場で発行してもらった記憶がある。

小野山委員 どのくらいの技術が見に着くのか。

事務局 AED の操作や負傷者の応急手当などがメインで、避難所運営などに直接関わる内容ではない。ただ、こうした人もたくさんいた方が良好だろうということで、市で取得者増を推進している。

梶川委員 資格は時々更新することが重要だ。一度やったきりではいざという時に本当にできるかどうか疑問だ。

小野山委員 いざという時「できます」と自ら自信をもって動けるかどうか。最初に講義を受けた時の危機感や気持ち、技術をどれだけ持続できるか。どうしても人は忘れていってしまう。小杉駅のビジョンなどで定期的に啓発映像を流すのも良いと思うが、興味が無い人にどうやって働きかけ、さらにどう持続性を持たせるか。子どもを対象とすれば入り易い面、継続させやすい面があるかな、などと考えていた。

事務局 市民救命士は 3 年毎の更新を目安としてお願いしており、その都度、AED の操作体験などしてもらっている。

梶川委員 町会などで、消防署に来ていただいて、講座を開講している例もある。ただ、平日の日中なので、参加者は高齢者や昼間地域にいる方が多いように思う。

小野山委員 土日にも取組を進めれば変わってくるかもしれない。

事務局 避難所を開設する際のリーダーの必要性の話の中で、梅原委員から、こうした資格を持った方がいれば、周囲も納得しやすい形でリーダー的役割が果たせるのではないかというご意見が出た。市民救命士については、事務局の方で、こういう資格もあるということで、加えさせていただいた。

萩原委員 大体、避難所は担当の町会が決まっていて、そこを中心に動いておられ、資格をもっているからといって、避難所が開設できるわけではないと思う。

事務局 「町会で既に〇〇班などの役割が決められているのが、その人達だけでなく、新しい人に入って欲しい」という意見も伊藤委員などから出ていた。

萩原委員 町会は、担い手や訓練に参加する人が固定化してしまっている様だ。

梶川委員 区民会議としてどうやって入っていくかは、難しい。

萩原委員 何かイベントと一緒に開催することで子ども達が参加したり、炊き出しなど体験してみることができれば価値があるように思う。

コンサルタント 課題調査部会での議論は大きく二つに分けられていた。一つは伊藤委員や内田委員を中心とした避難所を運営する視点からの議論。現状では町内会などを中心に役割分担が進められているが、いざという時に誰がどれだけ動けるか分からない中、担える人をいかに増やすか。担える方がたくさんいることを目指したいという議論。もう一つは、まだ体験をしたことがない方々に一度でも参加していただいて、「避難所はこういうものだ」、「こういう場所なんだ」ということを理解していただく事を

主眼においた議論があった。

日中地域にいる中学生や高校生を担い手としてはどうかという議論もあった。他の自治体でも「子どもの防災隊」などの取組例もあるので、中原区としてその辺りをねらってみるという考え方もあるかもしれない。

萩原委員 避難所は大体学校施設で、地元町内会長と校長先生が責任者となって避難所運営をするのが普通だ。しかし、その訓練においては、子ども達は参加しないのが普通なのか？消防署では中学校で避難訓練をしている聞きいている。

事務局 少し前までは「災害発生時の手伝いを子どもにやらせるなんて」という考え方があった。しかし近年、大人や無関心層よりも子どもの方が一生懸命取り組み、充分力になれるということがわかってきた。子ども達の安全確保の上で、地域住民の一人として、参加させようと変わってきている。

まだ経験していない方をどうやってひっぱりだそうかという議論もあった。普段「防災訓練なんていかない」という人たちに「災害時はこんなに大変」「避難所に行って担い手なろう」と訴えていかなければという意見もあった。最近は学校の先生方の防災に関するご理解も進んできている。校長会などを通じて話をもっていけば、あるいはやろうと申し出てくれる学校も現れるのではないかと思う。

萩原委員 簡易トイレの組立法なども中学生の方が上手で飲み込みが早い。車いすの押し手などとしても充分力になる。

小野山委員 子どもを通じた親への波及効果も期待できます。お子さんがいない家庭についてどうするかという課題はあるが将来的には繋がっていくと思う。

成田部会長 小中学生のご家庭は区内に増えてきているし、子どもから親へ発信するという考え方も良いと思う。

萩原委員 子どもが大人に教えるような仕掛けはよい。

小野山委員 お子さんに認定資格をつくってはどうか。紙切れ 1 枚でも認定書を発行してあげれば、やる気喚起できるのではないか。

萩原委員 認定制度については自転車交通安全の課題の時も（第 5 期）、同じような話題になっていた。

小野山委員 うまく認定してあげれば、胸を張って取り組んでくれると思う。

成田部会長 防災マップづくりに取り組んでいる学校もある。町内会単位でやる防災訓練よりも、学校が主催する防災訓練に地域が入っていく形でも良いと思う。

田邊委員 課題調査部会では、イベントと抱き合わせでいろいろな方にとにかく体験してもらいたいという意見だった。また日中、地元にいる中学生にいろいろとお願いしたい。いかに自分が働こうかという意識が大事ではないか。誰に何を聞いたらいいいかわからないことが多い。避難所での担当係の表示など、どの人に聞けば良いのかわかりやすいようにしておく。中学生にも「こういうお手伝いができる」というしるしを、たすきでも帽子でも良いのでつくって渡すなど、地域にいっぱいお願いできると良いと思う。

事務局 例えば「防災訓練の日」を定めて、毎年、多世代で避難所運営訓練をやる。家族をつれてきて、みんなでやる。子どもの成長も見据えて、定期的、継続的に取り組

みが進められると良いのではないか。

小野山委員 各家庭で参加できると良い。

事務局 子どもから「防災訓練に行こうよ」と親に言ってもらう。なかなか伝わらない悩みがある。備蓄などもどこに何があるのか、皆さん知らない。見せると「これだけしかないのか」と驚かれる。災害は昼か夜か、夏か冬か、ライフラインが止まるかどうか、どんな困難が起こるかわからない。訓練を重くしすぎると大変だし、軽くしすぎても、危機感なく、ただ見ているだけになってしまう。

萩原委員 良い事例を作りたい。

成田部会長 それを PR する時に、情報弱者に届くようにしたい。子ども達が近所の高齢者を助けることなどにつなげたい。

橋本副部会長 車椅子の方など、関心をもちつつも体が動かない人達もいる。また最近では認知症患者なども増えている。そうした方を地域で支えていこうという福祉の動きがあるが、その中に中学生も入ってもらいたい。ただ、個人情報の壁もあり、とりにいる方の情報がもらえない。自ら手をあげていただくような形を目指したい。

井上委員 (川崎フロンターレが) 中原区役所と一緒に毎年やっている「中原親子サッカードリム教室」という取組があり、小学生の児童と保護者を対象に 500 組を招待して等々力競技場で行うサッカー教室である。「子ども達に夢をもってもらう事」を目的に、プロ選手とのふれあいや本物の芝でのボール遊び体験などです。500 組一度にグラウンドには入れないので、空き時間はスタジアムのツアーやサッカーのゲームで時間をつぶしていますが、それでもまだ時間が余っている。ここに防災体験など、できるものを盛り込めると良いのではないか。参加者は 100% 区民。

萩原委員 起震車体験などもできそうだ。

井上委員 仮設トイレの体験なども可能だと思う。参加者の満足度が高いイベントで、拒否反応もないと思う。等々力競技場ということで、区の特徴も出ていると思うし、スポーツから派生した取組の場として利用できればと思う。

小野山委員 毎回 1,000 名の参加者というのはすごい。

井上委員 けっこう運営は大変。

萩原委員 いつごろ開催されるのか？

井上委員 実は今年の開催日程を今朝、区役所と相談させていただいていたところである。フロンターレの試合日程や芝生の養生との関連で未定だが、第一候補は 10 月。または 7 月末頃。この時期は暑さ対策が大変だが、放水体験などができるかもしれない。日程が決まれば、そこに加えていくことは可能である。

成田部会長 すごく良いと思う。何ができそうか検討したい。

萩原委員 避難所体験までは難しいか。

井上委員 部会では「寝泊りはどうか」という意見も出ていた。宿泊の有無よりは時間を共有することが大事であり、そこが濃ければ次に繋がると思う。毎年実施している事業なので継続的な取組にもなりやすいと思う。参加対象が小学生とご家族に限定しているので参加者の入換もある。毎年新規の参加者は全体の 6 割くらいである。地域に関心のある参加者も多くいると思う。

萩原委員 等々力競技場の中なら、避難所開設の練習ができそうだ。

井上委員 実際にテントを建てて、競技場内で一泊した例もある。その時は区役所の危機管理担当に協力をしていただいた。

事務局 子どもというのは、そういうことが思い出に残る。

井上委員 夕方に集まってグラウンド内のテントに宿泊した。二年程前に流行ったイベントで横浜スタジアムなどでも例がある。等々力競技場では、FC 東京との多摩川クラシコの試合前日に、ちょうど7月だったので「天の川クラシコ」と題して、夜は天体観測など行った。翌朝は6時頃に起きて、体操しご飯を食べて解散、試合観戦という流れだった。ワンデイイベントですが、大勢の区民に来ていただいた。

萩原委員 開催後の情報発信も上手くできそうだ

成田部会長 体験重視のイベントになる。

小野山委員 サッカーができない子も参加できるのか。

井上委員 もちろん参加できる。人数は500組1000名だが、同伴者の制限は特に設けていないので、ご家族など3～4人で参加するケースもある。

梶川委員 募集はどのように行っているのか。

井上委員 区内の小学校に募集チラシを配っている。そしてインターネット上からエントリーしてもらう。こちらとしても管理がしやすいやり方。参加者には感想などをアンケートしている。成果も出しやすいと思う。

橋本副部会長 どんな企画が加えられるか、ぜひ考えてみたい。

萩原委員 7月開催となった場合、企画の検討は急がないといけな。

梶川委員 楽しいイベントになりそうだ。

事務局 昨年、消防署、警察署、区役所を周る「ぐるぐるツアー」というイベントが、初めての試みとして行われた。それぞれのお仕事を知ってもらおうという趣旨である。区役所での体験企画を考えた結果、防災に関心をもってもらうために、真っ暗の中を歩いてもらう「暗闇体験」を実施した。私も東日本大震災の停電で、普段何気なく歩いている階段が本当に真っ暗で恐ろしかった経験がある。本当の暗闇は都会では子どもはなかなか経験できない。

イベントが決まれば、いろいろなアイデアを持ち寄れば良いと思う。天体観測やキャンプなど、子どもが興味をもってくれる企画ができるのではないかな。

萩原委員 避難所体験がもし可能であれば、車いすや外国の方も交じっていただけるようにできると良い。その中で、「こういうサインが必要とか」「こういう説明が欲しい」など、ユニバーサルな要素を加えたい。

事務局 区内に大学は無いが、市内の専修大や明治大、看護短大などの学生に声をかけ、ボランティア体験してもらうのも良いと思う。子ども達を可愛がってもらえると思う。国際交流センターがある区の特性を活用して、外国人をいれるのも良い。外国の方と話したことがない子どもも結構いると思う。

橋本副部会長 車いすの体験なども良いかと思う。等々力競技場なら広い場所がありそうだ。

事務局 視覚障がいの疑似体験をする例もある。ちょっとした障害物の大変さ、怖さが

わかる。

井上委員 競技場施設には暗い場所はたくさんあり、以前、肝試しをやったこともある。

車いすで、競技場のトラックで競争させてもよいかもしれない。パラリンピアンが普段はトレーニングをしている。

事務局 車いすの体験も良い。

田邊委員 車いすは押すだけでなく、乗ってみると結構怖い。良い体験になると思う。

井上委員 川崎フロンターレとしても空き時間のアトラクションが増えればありがたいです。これまで年度によっては「だれた」と言われてしまうこともあった。

田邊委員 車いすでの煙体験などどんな風になるんだろうと思う。煙体験はなるべく低い姿勢をとりなさいと言われるが、車いすだとそれができない。町会単位の訓練と違う体験ができるのではないかな。

成田部会長 広さを活かして障害物などいろいろな体験ができそうだ。

田邊委員 一度体験するといざというときにすごく役に立つと思う。

事務局 私は今、アキレス腱を怪我して松葉杖を使っていますが、本当に不便で障がい者の方の大変さを実感している。すぐに逃げられない方の気持ちがわかる。障がい者蔑視にならないように、主旨をきちんと説明して進めることが重要だ。

小野山委員 バリアフリーは進んでいるか。

コンサルタント バリアフリーに関しては部会であまり具体的な意見が出なかったところです。どういったサインがどこにあれば良いのかなど入れてみても良いと思う。サインといっても避難所までのルート、中原区の被害想定、給水ポイントなど、様々なものが想定できる。

梶川委員 何期か前の区民会議の提案を受けて図上訓練に参加したことがある。

事務局 第4期の区民会議の提案かと思う。

梶川委員 参加したことで、地域にある施設などを良く理解することができた。

橋本副部会長 何人か集まって作業することで、自分が気付いていな所まで良く知ることができる。

梶川委員 避難所になっている学校までの距離がある地域の方もいる。車いすの方など本当に大変だと思う。

事務局 区内では28か所、小中学校を中心に避難所が指定されている。しかし熊本などの例を見ると避難所に限らず、体育館や公園などにも多くの方が避難していた。余震が怖いから自宅に戻らず、車で公園や駐車場に避難し、一夜を過ごす方も多かった。この近辺で大きな災害があれば、等々力競技場にも多くの方が押し寄せて来られると思うが、表向きには避難所にはなっていない。

萩原委員 自宅が大丈夫な方は自宅で過ごしていただかないと、避難所がパンクしてしまう。食事があると思って避難所に来て、出てこないと騒ぐ方も居るみたいだが、勘違い。

コンサルタント 避難所に対する意識改革も部会で話題になっていた。避難所に行けばなんとかなる、何かしてもらえんと思って居る方が多いのではないかなという意見だった。

小野山委員 「避難所に行かなければならない」と思っている方も多いと思う。

萩原委員 負傷や家屋倒壊などで自宅にいられない人を受け入れるのが避難所である。

町会会員以外の人が来られては困るという意見もあるが、そういう意識・認識では困る。何かあったら、町会や地域に関係なく助け合わなければならない。町会の方々の訓練や役割をさせられて、いざという時は全く参加していない人の世話をすることへ不公平感分かる気持ちもあるが…。

小野山委員 使命感があがるような仕組みが足りないのではないか。

田邊委員 自宅でもない、避難所でもない、車や公園で避難生活している方をどうやって把握するかという話題もあった。そのための受付が避難所にあると良いという意見もあった。

萩原委員 自宅にいない人が避難所に連絡するのはわかるが、自宅にいる人まで避難所で情報を集めたら、避難所が大変だ。大災害の時はそういうレベルの被災者数ではない。

田邊委員 一人暮らしの高齢者の居場所、自分で避難所に行かれないような方をどうやって把握し、どう支援するか。その仕組みは必要だ。

事務局 大災害時は、行政職員も消防も警察もみんな被災する。把握したくてもできない状況も想定される。綺麗事だけでは済まない部分がある。

萩原委員 支援が必要な方の情報は民生委員がある程度把握していると思うが、その民生委員が被災してしまうことも考えられる。

小野山委員 個人情報共有できないのでしょうか。

橋本副部長 できにくくなっているのが現状だ。

事務局 昔は隣近所の人間的な繋がりの中である程度把握できた部分が、把握できなくなっている。特に小杉駅周辺は集合住宅が増えていて、隣に住んでいる方が誰かも知らない。どこに高齢者がいるかわからない。消防や警察もすぐには来られない。公助が動き出すまでは、なんとか自助、共助で頑張ってほしい。行政も過去の災害の教訓から、本音でしゃべるようになってきている。

萩原委員 避難所では数日後にはヘリから食料が落とされてくるのか。

事務局 川崎だけでなく、首都圏に広く被害が出るような災害の場合、それが何日後になるか分からない。

コンサルタント そろそろ提案に向けた議論のまとめに入りたい。

萩原委員 サッカー親子教室と組み合わせて何かやるというのは大賛成だ。何ができるか今から検討したい。外国人や障がい者の方々もぜひ取り込みたい。

コンサルタント 「継続性を考える」「出発点としての弱者支援の重視」「区民会議として取り組む上での新しい要素の盛り込み」などは、本日出された新たな視点だと思う。「きっかけづくり」と「担い手・体制づくり」の二つの視点の話も出たが、どちらかを選ぶということではなく、それぞれ考える必要がありそうだ。中でも多かったのは避難所体験の機会や場を増やしていこうという意見だった。「中高生の育成」「子どもの資格認定」などの意見も出た。「市民救命士」は認定に年齢制限があるのか。

事務局 確認が必要ですが、AEDを扱うにはある程度の力が必要かと思う。

コンサルタント 「弱者体験」「学生の参加」「認知症の方の支援」なども新しい視点だ。親子サッカードリーム教室を場として、具体的な内容を考えていこうということの良いか。また、話に出ていた「ぐるぐるツアー」は今後も開催が決まっているのか。

事務局 まだきちんと決まってはいるないが、去年は区役所主催だった。区役所、消防、警察の三者協力のイベントで、「少なくとも一度主催が一巡するまで、あと2回はやろう」という話になっている。

橋本副部長 企業はそこに入れるのか。

コンサルタント 企業と一緒に何ができるかはまだまだ意見が出ていないところかもしれない。

萩原委員 富士通さんやNECさんにも声をかけることができると思う。

コンサルタント 現在の取組としては何かあるのか。

事務局 災害発生時の一時避難所として場所の提供、帰宅困難者の受入などについて、市と協定締結している例がある。しかし、企業も24時間、従業員がそこにいるわけではなく、あくまで「営業時間内に発生した場合」ということになる。従業員も一般市民の方であり、個人やセキュリティの問題もある。

萩原委員 企業側も施設提供や受け入れについては、約束しにくい面がありそうだ。むやみに来られても困る。何かイベントや訓練への参加であれば、喜んで出てくれるのではないか。

コンサルタント いち参加者として加わっていただくという形。企業で言えば、市はコンビニなどとも包括協力協定を結んでいたと思う。どのような内容だったか。

事務局 「帰宅困難者支援スポット」と言うことで、トイレの提供など。ただ、商品の提供などは難しい面がある。

コンサルタント 避難所案内掲示などだったら、コンビニでもできるか。

萩原委員 今までに中原区でつくった多様な防災マップを活用して避難所や給水所などの情報を入れたり、他か国語対応など、新しい中原区版防災マップが作れば良いと思う。

事務局 英語版は日本語と混在版などがある。

萩原委員 英語版だけでなく、混在することが良い。併記されていると、「日本語ではこう記載されるのか」がわかり、ありがたいのだと聞いた。

事務局 指さしマップといって、言葉が分からない方には絵で伝わるコミュニケーションできるようなマップを検討した。試した例もある。

萩原委員 QRコードやネット上の情報とつなげて良い。

事務局 ネットも良いが、災害時は停電や電池切れも想定される。そう考えると、アナログ形式の、多様な情報が掲載された冊子が一家に一冊欲しいということになる。

小野山委員 捨てられない、永久保存版となるような資料が必要だ。

事務局 家の周辺の地図もあり、防災に有益な情報が掲載されているような防災マップの災害版について、区も検討しているところです。区民会議からのご意見もいただければと考えている。

コンサルタント 全戸配布で考えられているのか。

事務局 全戸配布で考えている。企業の協力を得てスポンサーになっていただいて発行する形など交渉を進めている。

萩原委員 区民会議の成果としてもアピールができると良い。

橋本副部長 コンビニに防災マップを配架させてもらい、配布することは可能か。単身者など、区役所に来ない、町会に入っていない層もコンビニは結構利用している。

事務局 コスト的、費用対効果の問題がある。

橋本副部長 広告を掲載するなどの方法もある。

コンサルタント コンビニに部数を置くのはコスト的に難しいと思うが、災害発生時のみその地域の防災マップを大きく張り出してもらうような形なども考えられるかと思う。

事務局 配架になると印刷だけでなく、保管、配送などにも莫大なコストがかかる。また本来商品を置くスペースを奪うことにもなり、協力が得にくい面がある。

小野山委員 バスや鉄道事業者とはどのような協力体制になっているのか。

事務局 バスや鉄道については、まず事業者単位で防災計画を策定し、国交省の指導で、様々な想定や訓練が実施されている。ただ、地域の防災計画との連携などはまだまだ進んでいないのが現状だ。バスや鉄道の路線は行政区を跨ることも多く、特定の行政と連携を進めるのは難しい面もある。

コンビニについては、セブンイレブンさんとの協定に基づき、店内でのポスター掲出などは行っている。

また、今回避難所訓練という言葉が広く使われていますが、部会では体験型の訓練と避難所の開設訓練とを、もう少し明確に区別して議論していた。この辺りは少し整理が必要かと思う。

井上委員 「人まかせにしない」がテーマになるのであれば、自助にスポットを当てた訓練になるが、それが楽しみながらできれば、なおさら良い。

事務局 バリアフリー化については、「逐次やっている」という回答になるかと思う。段差のない歩道の整備など少しずつ進んでいる。綱島街道は随分きれいになった。409号の一部などでも進められているが、土地の買収なども絡み、時間がかかる。中原街道なども同様だ。

区としても、区民会議の意向を踏まえた、中原区の防災訓練を来年度に開催できればと考えているところである。開催時期にもよるが、10月頃であれば今から予算の組み替えや企画検討も充分可能と考えている。

4 第3回区民会議について

○資料3に基づき、開催日程、次第、進め方等について確認した。

5 その他（事務連絡）

○今後の日程について確認

課題調査部会…第3回：2月16日（木） 第4回：2月22日（水）

全体会…3月23日（木）14:30～

○今後の日程の調整

調整の結果、次回運営部会を３月９日（木）14:30～に決定。

○区民会議交流会の開催について（参考資料３）

6 閉会

（以上）